

七小校長室便り

国立市立国立第七小学校

校長室便り No.2 令和3年(2021年)7月5日

授業観察と職員面談

1学期も早7月となり、七夕の季節となりました。夏空に輝く織り星と彦星などの星を見ていると、そこに輝く星々が、太陽と同じ恒星とは思えない程、美しくキラキラと輝いています。

新しい日常の生活に追われ、星や花などの自然に目を向ける余裕をもつことが難しい状況かもしれませんが、心を癒してくれる自然の美しさに、一息つく時間をもつのもいかがでしょうか。

さて、第2号の校長室便りの冒頭では、私たち教職員の職務の一端をお伝えしようと思います。最近、テレビのニュースなどでも取り上げられていることもあり、ご存知の方も多くなってきたかもしれません。様々な職務の中でも、あまり知られていない授業観察と職員面談について、お話をしようと思います。年度当初の仕事の1つとして、管理職と教職員とで一年間の取組の確認を行う面談を行っています。また、それぞれの授業の様子を見て、指導や助言を行う授業観察という機会を作っています。授業観察においては、他の先生方が見る機会ともなっています。教職員の面談や授業観察においては、学期に1回程度、年間で2～3回程度行っています。

私たちの大切な仕事の中心にあるのは、やはり授業となります。教員としての一生は、授業力の向上にたくさんの時間をかけ、子供たちにとって楽しく分かる授業となるよう、日々、教材研究に励み、研鑽していくことが最大の職務です。教職員が職務に専念し、働きやすい環境作りを進めながら、チーム国立七小として努める教職員集団とするために大切な機会としています。



PTA行事部の皆さん
による七夕飾り

これまでの教員生活から得た思い

保護者や地域の方々にご来校いただき、様々にお話をしたり、学校の様子を見ていただいたりする機会がなかなか簡単には取れない状況が現在も続いています。皆様の中には、校長の私のことを分からない方もいらっしゃるのではないのでしょうか。また、子供たちにおいても、4月から七小の校長となりましたが、街中で子供たちに会っても、マスクを着けていることもあって、最初は気付かなかった子どもがたくさんいました。最近テレビ放送等の機会を通して覚えてもらえたようで「校長先生だ!」と声がかかるようになりました。子供たちから声がかかることは本当に嬉しく、楽しい気分になります。朝の挨拶にしても元気よく自分から挨拶をしてくる子どもを見ると、生命力という元気をもらえます。ある子供たちは、校長室の前で立ち止まり、「おはようございます!」、「こんにちは!」、「さようなら!」と挨拶をしていく子供もいます。また、中には、校長先生に話したいと、担任の先生と一緒に校長室に来て話をする子供もいます。

これまでの多くの子供たちとの関わりが積み重なるごとに、子供たちが学校に元気に登校して活動ができるように、引き続き全教職員で努めていかななくてはと、改めて思いを高めています。

今年度で30年を超える私の教員生活では、たくさんの子供たちと出会ってきました。もちろん、その分の保護者の皆様とも関わってまいりました。私の中では、出会ったすべての子供たちを自身が担任した卒業生のつもりでいます。実は、6年生の担任の経験は、1度しかなく、最初で最後の卒業生となった子供たちがいます。その後、主幹教諭となり、副校長となっていく過程では、子供たちとの直接的な関わりが少なくなり、とても寂しい思いでした。しかし、主幹教諭となって担任でなくなった時も副校長となった時も、子供たちは常に自分の前にいて、様々に頑張る姿を見せてくれました。私は、これからも担任の先生方には申し訳ないですが、全ての子供たちの担任のつもりで関わり続けていきたいと考えています。できる限り、先生方の邪魔だけはしないように、と思いつつながら。

これからも、校長室だよりを不定期ではありますが、続けてまいります。教育現場の思いを少しでも感じていただけたら、幸いです。

(次号に続く)

